

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名 非常事の備え！高齢者や外国人など、情報弱者を無くしたい！	自治体名 大阪市東淀川区
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	高齢者のための防災対策		

(注1)地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2)アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	公共		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→	2. 学生	
チームメンバー数(公開)	4 名		
代表者(公開)	細谷 悠太		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名 ([メンバー一覧ページ](#) を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

＜チームメンバー名簿:[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。 将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

(参考)よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)が大切です。

<提案するアイデアの内容>

2か月に1回ほど小学校で高齢者へ向けてのスマホの講習会と小学生対象の防災学習を行う。

また開催時期としては、地域のイベントやフェスティバルが開催されるときに行う。

ただ普通に開催されても参加率は高くないと考えるため、小学生と一緒に高齢者も気持ちが向上すると考えた。

主に学生ボランティアが主体となって動き、地域住民、福祉団体、介護関係の学生も入れる。

調査によると、年々高齢者のスマートフォンの所持率が上がっていることがわかる。したがって、スマートフォンの利用方法や緊急時における情報の入手方法を広く知ってもらうことが、災害時に情報を得、または安全を確保してもらうことにつながると考えた。そこで学生主催のスマホ操作講習会を実施するのが効果的だと考えた。

なお、学生主催が望ましいと考えた理由は、介護学校を卒業した実際の知り合いの25人の介護士に聞いた、介護士になる前に介護以外のことで高齢者と交流してみたかったかを聞いた調査の結果(5頁参照)による。同調査によれば、資格取得前に高齢者と交流してみたかったと答えた人たちが多く、介護関係の学生や公務員関係志望の学生も就職してから高齢者向けの講習会があると考えると、学生のうちから講習会を主催者側で参加するのは大きなメリットだと考える。

二つ目は、お年寄りと小学生と一緒に楽しく学ぶ防災については、小学生や高齢者に対して防災クイズを出題し世代を超えて学ぶことで、高齢者は小学生に災害時の話や知識を伝えることができると考えたためである。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考：以下のように理由を書いていきます>

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

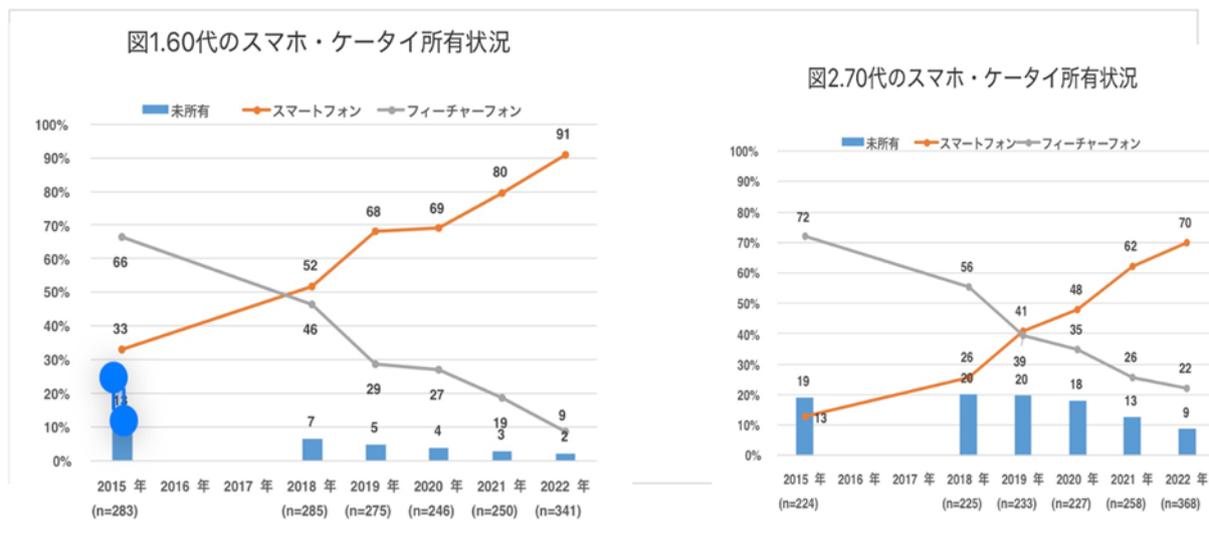
災害対策は、30年以内に70~80%の確率で来ると言われている南海トラフ地震のことを考えると今の日本においてとても重要なことである。

高齢者や小学生など、非常時に情報へのアクセスが困難な「情報弱者」を対象に、災害時の安全確保や適切な対応ができるようにする。

そのために2つの案を提案する。1つ目は、介護学生を主体に高齢者向けのタブレットやスマートフォンの基本的な操作方法を教える講習会を実施。2つ目は、小学生と高齢者に防災クイズを出したりして世代を超えて学ぶ。学生主体の災害に関するクイズを高齢者と小学生が協力して問題解決してもらう。

下の図を見るとわかる通り年々高齢者のスマートフォンの所持率は増えていることがわかる。

高齢者のスマホ所持率の変化

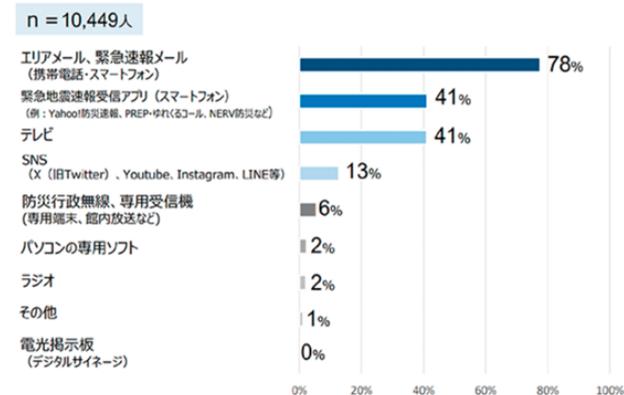


出典：<https://www.moba-ken.jp/project/seniors/seniors20220411.html>

現状

- ・災害発生時の緊急ニュースを知るのはメールが一番高い
- ・高齢者などは、情報伝達手段が限られ、避難指示が届かないことが多い。

Q5.あなたは、緊急地震速報を何で入手しましたか。（複数回答可）



（出典）気象庁「2024年1月1日16時10分頃の最大震度7を観測した石川県能登地方の地震での緊急地震速報に関するアンケート予備調査-速報版-」

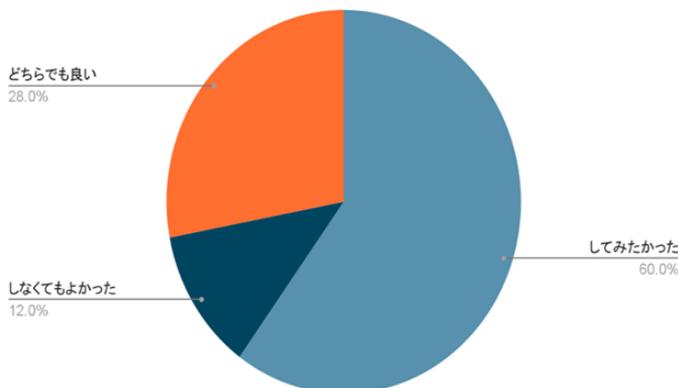
出典：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/html/nd121210.html>

上図からは、災害発生時に一番受信されるのはスマートフォンによる緊急メールだということがわかる。

講習会を取り入れる

右の図は介護士に聞いた介護士になる前に介護以外のことで高齢者と交流してみたかったかを聞いたグラフになります。

介護以外のことで高齢者との交流をしてみたかったか



出典：提案者作成

2つ目の、小学生と高齢者に防災クイズを出したりして世代を超えて学ぶを提案したわけとしては、ただ講習会を開催するとなると高齢者の人は参加率が低いと考える。そのため、子供と一緒に学ぶことで参加率が上がると思った。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

2ヶ月に1回ほど小学校の体育館で講演会と子供たちと一緒に学ぶ防災学習を行う。

2. 実現に必要な資源

どうしたら子供たちと高齢者に来てもらえるか。地域のイベントやフェスティバルが行われた時に、一緒に行く。高齢者も小学生と一緒になら楽しいし、気持ちも向上すると考える。



出典: <https://www.city.osaka.lg.jp/higashiyodogawa/page/0000571761.html>

どこで実施するか参考として、「新庄地域合同フェスティバル」は新庄小学校で開かれており、子供たちと一緒に高齢者も来やすいと考えている。

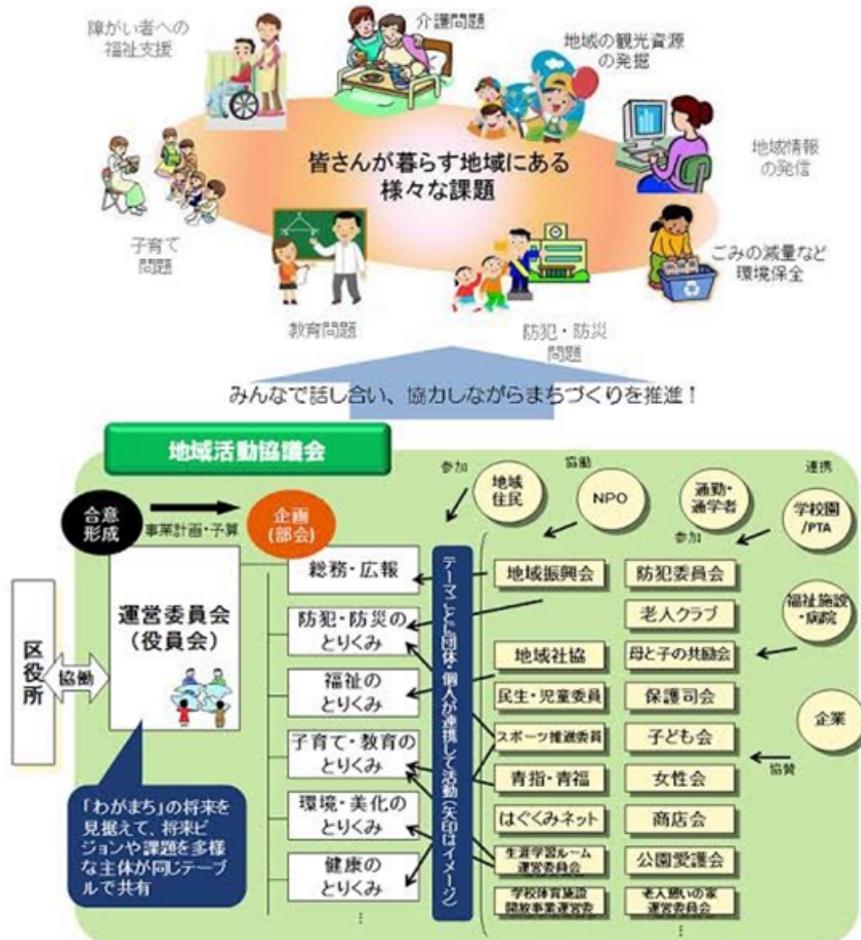
Q.どうやって体育館を使用するか？

A.小学校に相談する。

Q.誰が主体となって動くか

A.主体となるメンバーは徐々に増やしていき、地域住民、地域企業、福祉団体、学生ボランティアを想定している。我々がボランティアとして参加する。また、介護関係の学生や公務員関係志望の学生ボランティアが行う。そして東淀川区の地域活動協議会にも協力してもらう。

○大阪市東淀川区における地域活動協議会の役割について



出典：<https://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000190407.html>

Q.費用はいくらかかるのか

A.人はボランティア関係の人なのでかからず、場所も小学校の体育館なので低額で済ませることができる。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

地域協議会や小学校、ボランティアへの参加者合わせて一年以内。